

Title	元弘本古語拾遺
Sub Title	
Author	幸田, 成友(Koda, Shigetomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1926
Jtitle	史学 Vol.5, No.4 (1926. 11) ,p.170(630)- 171(631)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19261100-0172

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

材料の缺乏等によつてそこに多くの苦心が存在するのであつて、吾々は編者に對し深甚の敬意を表せざるを得ない。しかしながら評者はひろく一般地方史、郷土史に對して、一の希望を有してゐる。それはこれらの歴史に於いては支配階級よりも被治者階級、特權階級よりも民衆についての顧慮をもつと多くもたれん事である。地方の状態は中央の方針によつても、被治者の生活は治者の職權によつても間接に知ることができ得るであらうが、しかしこれらの歴史に於いては直接民衆生活の闡明を目的とせられたい。從來の國史に於いて吾々はこの點に多くの遺憾を感じたのであるが、地方史、郷土史はこの缺陷をみだすに最も適するものであるから、せめてこれらの歴史に於いて吾々の希望の實現されんことをぞむのであつて、かくてこれらの歴史は更にその重要性を増すであらう。(松本芳夫)

元弘本古語拾遺

前田侯爵家の所藏に古語拾遺の古鈔本が三種ある。其の中の「つて表紙に亮順、奥書に「元弘四年三月廿六日、於三金澤稱名寺一書寫並交點畢」とある一卷が、今度、同侯爵家と特殊の關係ある公益 育徳財團の手によつて、すべて原本のまゝ複製せられた。

前田家五代の藩主綱紀卿(松雲公)が文藝の方面に博い趣味を有し、人を四方に派して天下の遺書を求められたことは、事新らしくいふまでもない。本書はその一部で、原本の包紙には「鎌倉ヨリ出ル」と、松雲公自筆の文字があると云ふ。松雲公の特志と育徳

財團の美學とによつて學界に貴重なる研究材料の一つを加へることを得た。我等學徒は此の點に就いて特に感謝の意を表するものである。

我等が本卷を貴重なる研究材料といふのは、本卷が流布の古語拾遺所謂下部本と違つた伊勢本の系統に屬すること、流布本と對校すれば、文字の異同が少からずある。例へば流布本天地開闢の條に「天地剖判之初、天中所生之神名、曰天御中主神、次高皇產靈神、古語多賀美武須比、是皇親神留彌命、此神子とあるを、本卷に天御中主神の下に、「其子有三男、長男高皇產靈神、古語多賀美武須比、是爲皇親、次津速產靈神、是爲皇親神留彌命、神后彌伎尊一即伴佐伯等祖也、此神子天兒屋命中臣朝臣等、次神產靈神祖也。」に作り、又流布本、神武東征の條に「饒連日命、饒速日命、帥衆歸順官軍」とあるを、本卷に「饒速日命、帥衆歸順官軍」に作つてある。是等の異同ある毎に必ずしも本卷が流布本に勝つてゐるといふのでは決しない。師は勿論師の誤又孰は孰の誤であらう。併し兎に角流布本との異同は古語拾遺そのものの研究を一層精覈ならしめ、その最初の文章にかへらしむるに力あることは疑を容れり。由緒ある古鈔本の尊敬すべきは實に此の點にある。

育徳財團の今回の出版と同じ意味を以て、同財團成立以前に前田家で出版せられた書目は左の如くであると承はつた。此の書目の第一にある類聚三代格は所謂享祿本と稱するもので、在來關卷であつた三代格の卷二、四、六、十、十七、十八の六卷は之によつて補はれたのである。今日一般に行はるゝ國史大系本の三代格は弘化年間出版の版本と享祿本とを合せて印刷したもので、其の類

宋は大系本三代格の例言を見れば分るのであるが、それも見ずに同書を使用してゐる人もあるやうなので、一言書添へて置く。書物の蒐集及び出版が、我等學徒に大なる恩恵であることを明言し、資力ある人々に勸説する次第である。(幸田成友)

- 一類聚三代格 五册 明治十八年七月
- 一御室御物實錄傳菅原文時卿筆 一卷 明治三十五年六月
- 一豊臣秀吉三國處置太早計(征明計劃書) 一卷 明治三十七年
- 一豊臣秀吉與高山國書 一卷 明治四十二年九月
- 一豊臣秀吉與前田利家書翰 一卷 明治四十二年九月
- 一加藤清正木下平八ニ與フル書翰 一卷 明治四十二年九月
- 一謠曲高野詣 一卷 明治四十二年九月
- 一楠正成與判文書 一通 明治四十三年七月
- 一遺風筆白氏文集零卷 一卷 明治四十三年七月
- 一遼東志 一册 大正元年十二月
- 一日本書紀 第十一卷 一卷 大正三年
- 一專ら前田家に關する分
- 一加賀藩史稿 八册 明治三十二年九月
- 一加賀松雲公 三册 明治四十二年二月
- 一松雲公小傳 一册 明治四十二年九月
- 一瑞龍公世家 一册 大正三年五月
- 一芳春夫人小傳 一册 大正八年四月
- 一皇華隨班錄 一册 大正八年十月
- 一淳正公家傳 一册 大正十年九月
- 一天德夫人小傳 一册 大正十一年六月

書 評

一花 筐

一册 大正十三年四月

英文學覺帳

(戸川秋骨著 大岡山書店)

慶應義塾大學の戸川明三氏が、新たに世に示された「英文學覺帳」は、我々英文學と云ふ星の群を眺める事を樂しみの一つとして居る者共にとつて、誠に結構な思索の種、蕭洒な裝釘まづうれしく、行文にバタクさい氣取りのないのが、更にうれしく感ぜられた。

もつたない程、盛澤山の四百二頁、「乞食詩人キリアム・デイヴィス」以下、「サア・トマス・モアのこと」に至る前後十八項流暢な行文をあや取る爲の文學上の一手段として、「詩のことは私には分りません」「私は詩人としてのシェレエには感服が出来ぬ」と云ふ。下手に組んで、人氣役者にたてをたつて、これは少々大人げないとも云ひ得る扱方をもてあそんで居る著者は、さすがに老熟なもの。

そのお嫌ひのシェレエの話が、五十頁近くをかけて居られ、シェレエ傳のうち、最も人の興をひくその最後の事を、ツレロオニの「追想記」から譯して居られるのも面白い。キリアム・デイヴィスの詩を紹介し、變光星とも云ふべきその人となりや、彼の自敘傳によつて我々に示して居られる。その他、パトラの「夢想郷」モアの「無可有郷」、シラノオ・ド・ベルジュラツクの「月の世界及び日の世界」の話の梗概やら、作者の事、さては英國の小説源流の考察には、是非一讀しておくべきファイルインク作の